

各地域における遠隔授業・通信教育の実証に向けて、取り組むべきポイント（検証課題）を具体化する支援を行うとともに、遠隔授業の質保障に関するアンケートを実施。加えて採択機関同士の横連携機会をつくり、取り組み1年目における地域間の推進課題の相互解消支援を行った。

令和6年度取り組み概要	取り組みから得られた洞察
指定ネットワークの伴走支援／制度の在り方に関する調査研究 ◆各指定ネットワークにおける検証ポイントの整理 ・各採択地域における実施計画等から取り組みの力点を明確化 ◆遠隔授業・通信教育の実施状況に関する調査 ・各地域への現地訪問調査（第二次公募までで決定の9地域への訪問） ・各採択地域との定期面談を通じた状況把握・課題調査 ◆遠隔授業の質保障に関する調査 遠隔授業に係る関係者に対するヒアリング調査 ・遠隔授業配信教員、受信立会教員及び受講生徒へのヒアリングの実施 遠隔授業における質保証に関するアンケート調査 生徒：317件配布／400件回収　配信教員：22件配布／20件回収 ◆地域間の知見交流機会の設定 各指定ネットワークの基本情報の収集・共有 ・実施計画書の収集・共有　および　令和6年度遠隔授業一覧の作成 情報交流掲示板の設置 ・遠隔授業及び通信教育について、相互に情報交換する機能の作成 ・各地域共通で作成する資料の収集・共有 採択地域職員の横連携機会 ・指定ネットワークの行政担当者間の学び合い機会（オンライン・対面）	指定ネットワークの伴走支援／制度の在り方に関する調査研究 遠隔授業に関する課題・今後の施策 遠隔授業の質保障に向けた手立ての必要性 ・少人数での遠隔授業では生徒・教員ともに一定の満足感を得ている一方、大人数の授業は受信校生徒の集中持続や見取りの難しさ等などについて課題がみられる。 配信拠点の体制・環境整備 ・遠隔授業の需要に見合った供給を確保するために、各地域における遠隔授業の目的や位置づけ等を整理し、普及に向けたロードマップを明確化する必要がある。 遠隔授業のナレッジシェアの必要性 ・各地域において遠隔授業実施者の人数がかぎられるため、各教員がもつ経験や暗黙知を可視化し整理していく必要がある。 ・大人数の授業における効果的な授業づくりや協働的な学習の方策等について、各地の実践事例の共有や、新たな実践開発のための機会づくりが求められる。 通信教育に関する課題・今後の施策 対象となる生徒選定の難しさ（適時的なニーズの把握の難しさ） ・どのような状態・段階の生徒に通信教育という選択肢が最適であるか整理・明確化をすすめる必要がある。 ・通信教育の活用による対応に関する新たな共通認識をつくる必要がある。 ニーズに応じて即時対応できる体制構築 ・生徒の状況は日々変化するため、即時に対応することができる体制構築が必要（関係者間の情報共有体制・異なる教材に対応できる添削課題の準備等）

令和7年度に向けての課題および計画（抜粋）		
遠隔授業：取り組みの質向上に向けたナレッジシェア ・遠隔授業を担当する配信教員に対して直接支援を行い、遠隔授業の質向上に向けた授業づくりや知見共有を促していく	通信教育：通信教育による事例立ち上げ支援 ・特定地域・学校等との連携を強化し、本事業の趣旨に沿ったネットワーク活用事例を促す ・事例創出に向けて、関係者（学校・行政等）の合意形成や推進方策を具体化する支援に取り組む	採択地域：提供範囲拡大に向けた中期計画策定 ・引き続き横連携の機会をつくるとともに、各管理機関において、本事業における検証の普及・発展に向けた中期計画の作成スケジュールおよび準備項目を整理するための支援に取り組む